

飛躍

仙台市立錦ヶ丘中学校

第三学年 No. 34

2020. 3. 7

文責 千葉佐和子

卒業おめでとう

日本には四季があり、春には桜が咲き、夏には強い日差しがさし、秋には紅葉、冬は雪が積もり景色と一変させる四季。日本の四季は春に始まり、春に終わる。そんな日本の春に行われる「卒業」、それは一つの節目であり、次のステージへの第一歩を踏み出すこと。

みんなの中学校3年間の「春」は、1年生の時は広瀬中学校に入学する春。2年生の時は広瀬中学校で過ごした最後の春。3年生の春は錦ヶ丘中学校の生徒となった春。そして「卒業の春」は、錦ヶ丘中学校の第1回卒業生として巣立つ春。その「卒業の春」と学年目標である「飛躍」する春、大きく羽ばたく春にしようと思いました。しかし、突然の臨時休業。でも、私は学年主任（広瀬中学校では副主任）として3年間一緒に過ごしたみんなには素晴らしい「卒業の春（卒業式）」にしたいという思いで最後の一週間を過ごしました。

広瀬中学校に入学した1年生。校外学習は生徒数が多くて場所を探すのに苦労しました。学年の教室がプレハブ校舎と本校舎に分かれていました。学年集会を柏心館で行うとき、入るまで10分以上かかりましたね。

広瀬中学校で過ごした2年生。一番成長を感じたのは、バレーボールの授業でした。ミスしたときは、みんなで「ドンマイ」と励まし、ファインプレーには大歓声でたたえ合いました。自分ができないことを、グループのせいにして逃げるのではなく、できることを一生懸命やれば、周りが認めてくれる。大事なことに気づけたのではないのでしょうか。修学旅行も広瀬中学校と錦ヶ丘中学校に行く生徒で同じ自主研修だけど、別々になって計画を立てました。それぞれの班で個性がでましたね。

錦ヶ丘中学校の最初の最上級学年として過ごした3年生。この中学校の最高学年としての自覚が感じられた開校式。「桜花祭」では、3年生のパワーが十分発揮されたと思います。そして、学年委員が主催し、行った「運動会」「バレーボール大会」。どちらも、生徒たちの「やる気」に満ちあふれたものでした。

「陽光桜（ヨウコウザクラ）」は錦ヶ丘中学校の校木。バラ科サクラ科の植物。この陽光桜は里桜と寒緋桜（カンヒザクラ）を合わせて作った桜。広瀬中学校に入学し、錦ヶ丘中学校で卒業するみんなにふさわしい桜なのかもしれません。その桜の名前に使われている「陽光」は太陽の光線、明るい光の中で中心部に現れる光ったところを言います。錦ヶ丘中学校で過ごした3年生は、この陽光のように学校の中心となって光り輝いていた。桜が咲くのは春。みんなの「卒業の春」にふさわしい桜なのかもしれません。

桜は春の終わりに散り、夏に葉をつけ、目一杯の太陽を浴びて栄養を蓄え花芽を作る。そして秋には咲く準備が整っている。しかし、その花芽はすぐに咲くことはない。秋に葉を落とし、冬の寒さにさらし寒さに耐える時期を過ごさないと花芽は花を咲かせない。その長い冬を我慢した花芽だけが春に花を咲かせるのが桜である。「卒業の春」に咲く桜は綺麗で暖かい気持ちにさせてくれます。でも、その桜は寒さを我慢する桜でもあります。みんなは3年生の春に学校が変わる、卒業式は保護者がいないなど我慢をすることが多かった学年かもしれません。これもみんなが自分の「桜」を咲かせるためには必要なことなのでしょう。

みんなには2つの学校で過ごした「3年間の春」「錦ヶ丘中学校で過ごした春」「錦ヶ丘中学校の第1回卒業生として巣立つ春」と心に刻んでほしい。

3学年主任 千葉佐和子